

暦の上では『立冬』を迎え、今年も残すところ 僅か40日となってしまいました。ついこの間まで続いていた厳しい暑さから一転、今季1番の冷え込みの気温の更新に朝を迎えるごと、本格的な冬の訪れが間もないことを 実感させられているこの頃です。いつのまにか湿度も低くなってきましたが、インフルエンザの大流行や コロナを始め、様々なウィルスの感染対策の徹底に 一層 留意し、気を引き締めて過ごして参ります。保護者の皆様も 年末に向けてお仕事が忙しくなる中、どうぞくれぐれもご自愛下さい。

さて 来週27日、11月の第4木曜日は 収穫感謝祭(Thanksgiving Day)です。毎年、世界の各地では 自然の実りを感謝して記念の礼拝や行事が賑やかに行われます。つのぶえ保育園でも 子ども達と職員の皆で、日々の恵みや平安を与えて下さる神様に心を向けて 静かに想い合いながら 共に祈りと讃美をささげる感謝の礼拝を行います。『1620年の秋、信仰の自由を求めて イギリスから『メイフラワー号』という船で 大勢の清教徒(ピューリタン)達が アメリカ大陸へと渡りました。大航海の果てに 辿り着き 目にしたのは、これまでに想像もしたことのなかった何もない荒野でした。明るい夢を抱き 希望に燃え 船出した彼らの心は、絶望の暗闇に 覆われたのでした。何もわからないことばかりで 心身は衰弱し、病気で亡くなる者が相次ぐ日々でした。運んできた食料も底をつき、過酷な状況の中で なす術もなくなり苦しみ喘いでいた彼らのその様子を、遠くの方から心配そうに ずーっと見守っている人達がいました。この土地で 自然の摂理に身を委ねながら暮らしていた先住民(インディアン)です。彼らはピューリタン達に 食べ物や寒さを凌ぐ動物の毛皮を 差し出してくれました。それだけではなく、これからずっと皆がこの地に住み続け 生き抜いていけるように、この土地に適した穀物の育て方や それらの収穫の方法、保存の仕方、食べ方などの “自然と共存するための” 必要で大切なルールを 丁寧に細やかに教えてくれました。そのお蔭で翌年には、驚くばかりに豊かな収穫の時を 皆で迎えることができました。ピューリタン達は 大きな喜びに満たされ、インディアン達からの温かで親切な心を感謝すると共に、それまでの困難な日々を 常に守って下さり、優しい先住民達との 出会いを与え あふれる恵みに変えて下さった神様に、心からの礼拝を献げました。』この出来事をおぼえ、世界中のキリスト教会では 収穫感謝礼拝が行われていますが、それだけではない深い祈りが併せて込められていることにも心を向けたいと思います。それは 時を経ていく中で、ピューリタンの子孫達が、この最初の出来事に立ち返らず インディアンへの感謝を失くして 命を奪った上、彼らの土地や持物を我がものにして “植民者”と化した 悲しく惨い史実です。人としての傲慢、エゴは、感謝の真逆です。この世に生きるもの達に対する神様の願いは『愛し合うこと』『分かち合うこと』です。私達は皆 自分の力で生きることができません。すべてを与えられ、生かされています。日々の私達の糧のすべては、命です。人参も林檎も鮪も牛肉も…皆 生きていた命です。一つ一つの尊い命を頂いていること、その与えられた命が 自分の命になっていること、食べる＝生きるという意味の重さを 子ども達と真摯に考え、静かに想いを馳せながら 神様から与えられている恵みについて感じ合う温かな礼拝を献げたいと願っています。世界中のすべての生きとし生けるものが神様の安らかな御手の中に在るよう祈りつつ。 「わがたましいよ 主をほめたたえよ。

主の良くしてくださったことを 何一つ忘れるな。(詩篇 103:2)」(石田 記)